

本日ここで挨拶をさせていただけること、今まで私に関わったすべてのみなさまに感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

はじめに、この度の選挙戦の結果から、職員のみなさまは何を感じられたでしょうか。私は、私が訴えた政策に対する市民のみなさまの賛同もさることながら、半田市の未来に非常に大きな期待を寄せられたものと感じています。期待に応えられるように、自らが先頭に立ち全身全霊をささげることはもちろんですが、職員のみなさまの力をぜひともお借りをしたい。そして、市民のみなさまの英知を結集し、取り組んでいきたいと思っております。どうかご協力をよろしくお願いいたします。

さて、いつの10年も大事ではありますが、コロナ禍を受けてのこれからの10年はとりわけ大事になると強く感じています。コロナ禍によって価値観は大きく変わり、時代の流れも速く大きく渦巻いています。このような状況で半田市がこれからの10年何をしなければいけないのか、それは正に総合計画でも示された将来都市像「チャレンジあふれる都市はんだ」を創り、そしてチャレンジしたことを実現していくことです。そのためには、まずは市役所が「チャレンジ」を実践していかななくてはなりません。

「チャレンジ」とは、困難な問題や未経験のことに取り組むことであります。私なりに言い換えれば、失敗の可能性がゼロであることに取り組むことは「チャレンジ」とは言いません。失敗を肯定する訳ではありませんが、失敗を恐れず、全力で物事に取り組む、そんな半田市役所を目指していきましょう。もしも失敗した場合、責任はすべて市長である私がとります。その覚悟に揺るぎはありません。

そして、もう1点発想を次のように変えていきたいと思えます。「やれない理由を並べるのではなく、やれる可能性を探し出す」。すべての考え方をこのようにしていきたいと思えます。「この課題があるから、できない。」ではなく、「この課題を解決すれば、できる。」と変えるだけでこの課題の解決に向けて様々な方が動き出すことができます。職員のみならず市民の皆さんのお力をお借りして解決していくことで、今までできなかったことができるようになる、新しいことがどんどん生まれる、わくわくする半田市につながっていくと信じています。

最後に、私たちには、先人の方から受け継ぐ素晴らしいまち半田市を、さらに発展させて次世代に繋いでいく、責任があります。この責任を果たすべく、一緒に、これからの半田市を創り上げていきましょう。

以上、就任にあたっての挨拶とさせていただきます。

令和3年6月24日

半田市長 久世孝宏